

2011年度 第1回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2011年5月10日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 4階第3会議室
- 出席委員：青崎公博、五十嵐強、伊藤隆志、内田日出子、小野田恵、佐野美野里、田中紀子、野口しほり、山内淑子<以上9名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：稲葉孝之<以上1名、敬称略>
- 事務局：望月利将（事務局長）丸木敦（地域福祉課長）長山清美（コーディネーター）篠原保之（係長）

事務局より挨拶。前任期中は運営委員6名ですすめていたが、4月からの新しい任期においては10名の運営委員ですすめていく。事務局の自己紹介。

1. 委 嘱 状 交 付

(1). 委嘱状交付

委嘱状の交付 事務局長より委嘱状の交付。
事務局長より挨拶。

(2). 運営委員自己紹介

各委員より自己紹介。

2. 委員長・副委員長選出

(1). 委員長・副委員長の選出

委員から自薦、他薦がなく、事務局より、委員長に伊藤隆志氏、副委員長に佐野美野里氏を推薦。全員一致で選出される。

委員長：前任期に続き委員長を務める事になった。この2年間で分ったことは、自分がボランティアについて考えていたことより、大勢の方が様々なことを考えていたこと、その内容の奥が深いということ。そして、ボランティア活動は評価がなかなか難しいということ。社会的評価をどのように作り上げていくかは大きな課題だと思う。お金だけではなく、時間などで数値化する必要もあるし、これからは公共的な価値が問われてくると思う。公共の場面で必要とされ価値がもっと広がって来る社会になることが求められると思う。簡単にできる事ではないが、様々な世代の方に関わっていただき考えていきたい。またボランティア・市民活動センターをどのように働かせていくかということ。いろいろな人たちの意見や感じていることをボラセンを通じて実体化して

いく。職員をどのように働かせるかが使命だと思う。楽しく会議をすすめていきたいと思う。

副委員長：職員の方たちに、もう少しきめ細やかに関わってもらいたいと思う。なおかつ、ボランティアをしたいというニーズを持っている人たちに、どのように対応していくかが課題。様々な人と、センターを利用していくのに、どういう方法が良いのかを模索しながら一緒に考えていきたい。今回新しい世代の方が委員に加わっていただいたことが何よりもうれしい。

ここから、委員長に議事進行を引き継ぐ。

3. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の進め方について

事務局：今後の委員会のスケジュール確認をしたい。年に6回の開催。奇数月の第2火曜日 18:30～20:30 に設定している。よろしければその予定ですすめていきたい。

委員長：年間予定表を見てほしい。7月12日、9月13日、11月8日、1月10日、3月13日、いずれも火曜日、年6回の開催を確認する。

(2). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

委員長：事務局より業務報告をお願いしたい。

事務局：今年度4月までの報告をする。3月11日の震災以降はボランティア・市民活動センター事業に変更があった。ボランティアのつどいは震災の影響で開催を中止した。開催場所の田無小学校も学校行事を自粛していたため、2011年度の開催を見送った。次年度に向けては5月24日に実行委員会を開催する予定。3月中旬からボランティア保険受付を開始している。3月22日から31日まで西東京市役所が行った被災地への物資の受付・仕分けにボランティアのコーディネートをを行った。北多摩北部ブロックのボランティア担当者連絡会、東京ボランティア・市民活動センターの連絡会に参加している。2か月に1回発行している通信「ぼらんていあ倶楽部」は封入作業をボランティアに協力していただいている。

コーディネート状況報告をする。4月期に登録の更新を行っている。新規登録の方もいるが、様々な理由で活動を休止される方も多く出ている。ボランティア紹介については、震災直後はイベント開催を中止するケースが多く依頼が減っていたが、徐々に件数が増えてきている。ボランティア保険の加入者については、震災後ということで地震・津波にも対応している天災プランの加入者が多くなっている。ボランティア登録者以外の方が、被災地での活動のために保険加入に来ている。相談状況について、「その他」の項目では、被災地支援についての相談が多かった。5月から「夏！体験ボランティア西東京2011」の準備が始まる。受付は6月24日（金）からはじまる。都立高校での「奉仕」の授業のサポートも入ってくる。7月4日5日の2日間で「ボランティアはじめて講座」を開催予定。地域での活動やグループでの活動などを紹介していきたい。

田無総合福祉センターに入っている事業所の一部がフレンドリーに移転したため、空

いたスペースへ、ボランティア・市民活動センターを含めた事務所の移動が予定されている。

委員長：初めて報告を受ける方も多いと思うので質問をしてほしい。

委員：一般ボランティアと特技ボランティアと表記があるが、どのような特技ボランティアがいるのか教えてほしい。

事務局：一般ボラは依頼に対して様々な活動を行うもの。特技ボランティアは、お持ちの特技を活かして活動したい方。活動内容によって分けている。傾聴活動・音楽活動・踊りなどがある。施設での行事の際に特技を披露していただくことでボランティア活動をしてもらっている。個人やサークルで活動している方が登録している。

委員長：今後の予定の中で「ボランティアのつどい」の実行委員会は来年に向けてということか。

事務局：次年度に向けての実行委員会になる。今回中止になった、つどいの実行委員会の方を中心に声をかけて準備をしている。

委員長：夏！体験ボランティアの受入施設の担当者会議は通知は出したのか。

事務局：案内の発送前に各施設に電話で確認している。担当者から勤務時間内での開催が求められたため15時から行う予定。参加団体は80施設中20団体くらい。

委員長：5月18日の保育園園長会への出席は保育園に行くのか。

事務局：園長会が田無庁舎で開催されるので、そちらに出席する予定。毎年、夏ボラでボランティアを受け入れていただいている。参加者からの希望も多いため、今年度の依頼を行う予定。

委員：田無総合福祉センター内の一部事業所のフレンドリーへの移行の後、ボランティア・市民活動センター事務所の引越はどのようになるのか。

事務局：詳細はこれから決まってくる。今後ぼらんていあ倶楽部等でお知らせしていく。

委員：引越しの詳細はどこが決めるのか。

事務局：田無総合福祉センターは市役所健康課が管理している。細かな点は協議中なので、まだ報告できることはほとんどない。市役所から、移る時期が決まればご報告したい。

以上、報告・質疑を終える。

4. 審 議 事 項

(1). 2010年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）について

事務局：提出資料に多くの間違いがあり訂正箇所が多いため、あらためて委員各位に対し、会議録を事務局で精査したうえで、未定稿という形で送付しご意見をいただき委員長にご相談の上、確定稿にしたいと思う。会議録の扱いについても、次回の委員会で検討いただきたい。会議録を公開にするか否か、また、その内容についても、今回の議題に載せ忘れているので、取り扱い方についてもご検討いただきたい。

委員長：会議録の公開について、委員会で検討して良いのか。

事務局：委員会としてお願いしたい。

委員長：提案の通り、あらためて訂正資料を送っていただき、その取り扱いについては次回に検討したい。現在はHPで見る事が出来るのか。

事務局：確定稿になり次第順次公開してきた。

以上、2010年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を各委員に対して再送付の上での承認について、また、次回委員会での検討課題を確認の上、会議録（未定稿）に関する審議事項の検討を終える。

(2). 2010年度西東京ボランティア・市民活動センター 事業報告(案)ならびに決算(案)について

委員長：2010年度活動報告について、説明をお願いしたい。

事務局：事業をすすめていくうえで、広報活動に力を入れていきたいため、2011年度は広報活動の強化が検討課題になっている。外部事業へ参加しての広報活動として、地元の大学での学園祭に参加してきたが、学生にボランティア参加を考慮いただくには、お祭りでの出店ではなく、別の形で働きかけていくようにしたいと考えている。市民まつりは社協と1日ずつテントを使って1日のみの参加にしている。会場でチラシやパンフレットを配布しているが渡しっぱなしになって、その効果までは検証できていない。検討をすすめていきたい。災害時のボランティアセンターのあり方については、市役所との協定も含め検討しなくてはならないが、現体制では進めていけないので、社協全体で取り組んでいる。帰宅困難者対応訓練も同様に社協として参加している。夏の体験ボランティアは、昨年度参加者が減ってしまったが、目的を持って参加した人が多く、受け入れ施設での参加者に対する評価は高かった。参加者がいなかった施設も多く、今後の課題となっている。北多摩北部ブロックボランティア担当者連絡会主催のコーディネーター研修会では、施設のコーディネーターから実践例を伺っている。ボランティアはじめて講座は3週間にわたって開催した。参加者のほとんどがボランティア登録を行い活動をしている。今後フォローアップ講座も企画したい。ボランティア懇談会は傾聴活動についての講座を組み入れた。小学校での総合的な学習の時間では、盲導犬を利用している障がい者の講演を新たに加わえた。ボランティア登録者数は活動休止をしている人もいるので、活動できる人は表記している数字ほど多くない。定期的にFM西東京でのボランティア紹介番組に出演していただいている。財源づくりについては、今後方針について検討していかないといけない。震災後、支援物資の受付・仕分けへのボランティア紹介を行った。

委員長：質問をお願いしたい。

委員：報告書のタイトルが次第と違っているのはどのような理由か。

事務局：西東京市社会福祉協議会体の事業報告書の中で、ボランティア・市民活動センターの部分を抜粋したためタイトルが違っている。

委員：災害時に備えた訓練について。帰宅困難者対応訓練などは、実際の被災時にどのように活かされていたのか。

事務局：帰宅困難者対応訓練は沿道支援として行っている。大きな街道を利用して帰る人を支援するもの。エイドステーションを開き、水や食料、情報を提供するサポート活動。3月11日に実際に帰宅困難者が大勢出たが、混乱は鉄道の駅に人が集約されていたと思う。夜間であったこともあり、住民の支援参加にまでは至っていなかった。昼間に幹線道路を利用する人があれば、訓練が活かされていたかもしれない。以前の訓練では、千駄山広場の近くの自治会やふれあいのまちづくり住民懇談会、日赤奉仕団に協力していただき訓練を進めてきた。今回は住民レベルでは、訓練が活かされていなかった。

たと思う。

委員：保谷ボランティア活動室の場所はどこなのか。

事務局：保谷東分庁舎の地下に2部屋ある。

委員：地下のため、狭く感じる場所。暗い感じがする。

事務局：もともと1つの部屋を2つに分けたため狭いと感じるのだと思う。半地下のため明るさは足りないかもしれない。

委員長：武蔵野大学の摩耶祭について。学園祭でのボランティア・市民活動センターの活動は、学生には知られているのか。

委員：テントの前には、たくさんの人は並んでいた。

委員：綿菓子を買いきてくれた方にチラシを配ったが、お祭り騒ぎの中なので、チラシは捨てられていたと思う。反応は良くはなかった。

委員長：学生の受け方も同じだと思う。学園祭での広報活動はどうしたら良いのか、効果を検証していかなくてはならない。

委員：学園祭では、福祉について調べた内容を教室で発表している。社協の方にインタビューしたりしているので、ボランティア・市民活動センターと一緒に発表しても良いのではないかと思う。

委員：その方が目的に合っているかもしれない。

委員長：研究発表の場で一緒に活動した方が良いかもしれない。効果を考えると関心事の高い場面で一緒に活動した方が良いかもしれない。

委員：夏の体験ボランティアで参加者がいなかった施設には、どのような問題があったのか。

事務局：ボランティア活動の内容及び施設の参加者数が少ないと思われる。保育園や高齢者の施設は活動内容が分かりやすい。障がい分野は分かりづらいかもしれない。

委員：障がい種別によっては理解しにくいかもしれない。その障がいに関する印象が強く、誤って理解されている。話し相手として一般の方と触れ合う機会が少ないので、施設としても社会的な情報が生で得られる機会として貴重な場になっている。体験ボランティアを通じて、障がいに対する理解の機会を増やしてもらいたい。

委員：具体的にはどのように接したら良いのか。

委員：普通に話していただければ良いのだが、それがなかなか難しい。ボランティア養成講座を開いたりもしているが、人はなかなか集まらない。

事務局：体験ボランティアは、東京都内で30年続いている事業。10年ほど前までは施設間での差はなかったが、10年前あたりから圧倒的に保育園の希望が多くなった。最近では将来の職業を選ぶための1つのステップとして参加している人が多くなっている。また、対象がかわいいという理由もあると思う。

委員：保育園を希望する参加者は、保育園や幼稚園の先生になりたいという人が多い。

委員：施設には大学の授業の一環として実習には来ていただいているが、ボランティアとしては継続してきていただけない状況。

委員：地方の大学に通っている人が帰省時に参加している人もいる。

委員長：教員は実習で参加している人もいる。一週間でもボランティアに入ることは良いことだと思う。お年寄りも喜んでいる。福祉系の仕事をする人が増えているかは分からないが、実習として参加をすることは良いかもしれない。

委員：職場にも学生がたくさん来るが、何をして良いかが分からず、指示を待っている人は多いと思う。

委員長：それをはっきり言わないといけない。今の若い人は言われると理解は早い。考えさせると時間がかかる。まずは教えてあげることも必要かもしれない。

委員：実際のボランティア活動の場では、特別なことはせずに、寄り添ってあげれば良いという考え方もあり、その場合、対象者と時間の共有ができていると考える場合がある。体験ボランティアは、スタンスが違うかもしれない。

以上、質疑を行い、2010年度事業報告の審議を終える。

5. 協 議 事 項

(1). 2011年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画ならびに予算について

事務局より、資料から重点箇所を説明し、質問を受ける。

委員長：予算や決算は当初予算から1年間いろいろなことをやって、差異についての数字が残っていると思う。結果として活動した結果をお金で換算した時にどうだったかということになる。差異が大きなところで問題がある部分を取り上げれば良いと思う。

事務局：予算が多く残ったところは、郵送費が多い。全部の郵送物を単独で送る場合に必要な予算だが、郵送物をまとめて送ったり、会合に参加して直接お渡ししたりして残額が重なっていったと考えている。

委員長：事業なのでお金をどう効率的に使うかが問題。経費は使わずに済めばそれはそれで良いと思う。今年の活動について、どこ部分をどのように考えていくかだと思う。

事務局：事業計画について。2011年度の取り組みについて記載している。コーディネートの実践やボランティア活動に関心を持ってもらうこと、次世代育成も課題になる。今年是他事業との連携を考えて進めていきたい。高齢のサービス、地域活動、ファミリーサポート事業などとの連携は視野にいれている。コーディネートも的確な対応につなげられるようにパイプを広げていきたい。その実践のために、広報活動に力を入れたい。ぼらんていあ倶楽部について、事務的な構成になってしまい、魅力ある紙面になっていなかったと思う。結果として読んでいただけないものになってしまっていた。いろいろとこれからご意見をいただきたい。テーマ別研修の予定については、障がい分野での活動者増加や地域ごとでのミニはじめて講座のような企画を考えている。また、総合的な学習の時間での福祉体験授業のボランティアが少ないので参加者を増やしていきたい。ボランティア活動団体連絡会については、ボランティアとの関わり方を学びたいというニーズがあるので、今後考えていきたい。参加費の徴収については、事業が減っている中では限界があるので検討していきたい。

委員長：ここ数年間と大きく違う活動をするつもりはなく、広報に力を入れたいとのこと。ボランティア活動に関心も持っていただけるように事業をすすめるときに、これまでの広報が悪いわけではないと思う。ただ、タイムリーに届いているか、こちらの意図を理解してもらっているかは考えなくてはいけない。もっとニーズを知りながら、紙面構成を変えていかなくてはならない。その他の活動については地道な積み重ねを行うということになると思うが、皆さんからいろいろなヒントをもらいたいと思う。例えば、子育ての分野からの意見があればいただきたい。

委員：講座を行うときに保育ボランティアを依頼しているが、子どもも顔見知りになっているボランティアもいるほど、ボランティアにはお世話になっている。広報紙では、活

動の紹介など、自分にかかわりがある記事が1面にあると見てもらえる度合いが高くなるのではないかと。ボランティアの依頼情報が1面に合っても良いと思う。紙の色は決まっているのか。

事務局：毎回色は変えている。

委員：施設でもニュースを発行しているが、若い人の発想で紙面をつくっていくのも一つの手ではないかと思う。自分では作れない内容になっている。

委員：どうしても形式にとらわれて、硬いイメージになっている。

委員：一般の人は、ぼらんていあ倶楽部を知らないのではないかと。正直言って目に触れない。公共機関に配置していることは分かったが、数多いチラシや広報紙の中で、関心がない人には手に取ってもらえないと思う。

委員：公民館でも関心がないと目に映らないと思う。地域の青少年育成会なども特定の地域の中で、ボランティア活動をしている。ロコミで参加者が増えているが、ボランティア・市民活動センターでの依頼などは知られていないと思う。ぼらんていあ倶楽部自体の宣伝が必要。

委員：ボランティア・市民活動センターとして抱えている課題点や、これからどのように関わっていききたいかなど、現状はこうだという点を出していったらどうか。どの分野での活動者が少ないなどの認識を共有し、どういう意見を吸い上げていききたいかを共有したい。ボランティア登録をしている方に、どのようにしてもらいたいかを具体的に挙げていただいた方がよい。そもそもボランティアというものは、声がかかっても何をしたら良いかわからないことが多い。活動に慣れていない人は、ボランティアとはどういうものかも、わからない。どこが問題なのか、示してほしい。

委員長：そもそも論を共有した方がよいかもしれない。その辺りの整理をして次回に検討したらどうか。地域にはもっといろいろな活動をしている人がいるが、地域の資源だと考えている。どれだけ生き生きとして活動しているかがバロメーターだと思う。マッチングが十分にできていない。言い換えれば、一人一人のコーディネーターしかできていない。共通認識を持って次回に話したい。今日はいろいろな意見が出たので有意義な会議であったと思う。

事務局：課題を整理して、どのようにしたいかを示していき、次回の会議で検討していただきたい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

■日時：7月12日（火）18時30分～20時30分

■会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2011年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了し散会する。